

# English Garden 第20話

## "And Then There Were None" Mother Goose

### 「そして誰もいなくなった」 アガサ・クリスティー

イギリスの著名なミステリー作家 Agatha Christie (1891-1976) の作品 "Ten Little Niggers" (10人の黒人の子ども) が、アメリカで映画化されたときの題名です。小説の原題は「マザー・グース」の唄の題名の借用ですが、映画のタイトルはその歌の最後の部分からとったものです (日本語の翻訳書の題名も映画のタイトルと同じ)。なお、"Niggers" という言葉を避けるため、小説名は後に "Ten Little Indians" に変わりました。

物語はイギリスのデヴォン州の沖にある インディアン島という孤島を舞台に進展します。この島の豪華な邸宅を買い取った U.N.オーエンという見知らぬ人物の招待を受けて、さまざまな職業、年齢、経歴の10人の男女が、その邸宅に集まってきます。しかし招待主は姿を見せず、用意された立派な晩餐が終わるころ、不思議なレコードによって10人の過去の罪 についても法律の手の届かないものが暴かれ、唄の内容の通りに1人ずつ殺されて誰もいなくなるという風変わりな連続殺人事件です。

まず、ここに使われた "Ten Little Niggers" の内容をご紹介します。

Ten little nigger boys went out to dine;  
One choked his little self and then there were nine.  
10人の黒人の子どもが食事に出かけ、  
1人がのどを詰まらせたので9人になった

このように始まり、2人目は寝すぎ、3人目はデヴォンに留まり、4人目は薪割りで真っ二つになり、5人目はハチに刺され、6人目は法律の勉強でつまづき、7人目は薫製ニシンに呑み込まれ、8人目は動物園のクマに抱きしめられ、9人目はひなたぼっこでじりじり焼かれ、ついに残りは一人になります。

One little nigger boy left all alone;  
He went and hanged himself and then there were none.  
ひとりの黒人の子どもがひとりぼっちで取り残され、  
首を吊って誰もいなくなった

小説の中では、客の部屋それぞれにこの唄を書いた額が掛けてあり、食堂のテーブルには最初10個の黒人の人形が置かれていて、1人殺されるたびに1個ずつ減っていくという手法になっています。マザー・グースの中には特有の不気味さを持つものがありますが、ここではそれが効果的に利用され、残される人びとの不安と恐怖を高めていきます。なお、唄の最後の行はクリスティーがミステリー用に変えたもので、本来は He got married, and then there were none. となっています。

